

令和4年3月10日

八尾市議会議長

奥田 信宏 様

建設産業常任委員長

田中 慎二

建設産業常任委員会 所管事務調査報告書

本委員会は去る令和3年6月21日の委員会において、所管事務調査事項を議決した。その後、調査テーマを「市内企業のICT化とものづくりの魅力発信について」、「水道事業の広域化の検討状況について」の2つに決定し、調査を開始した。このたび、各テーマについて委員会として取りまとめを行い、「市内企業のICT化とものづくりの魅力発信について」は、提言を含めた最終報告を行う。

調査の概要については、下記のとおりである。

1 調査日

(1)建設産業常任委員会

令和3年11月	2日	執行部から現状等の説明、質疑 (市内企業のICT化とものづくりの魅力発信について)	
令和3年11月	9日	執行部から現状等の説明、質疑 (水道事業の広域化の検討状況について)	
令和4年	3月	5日	報告書等の確認

(2)建設産業常任委員協議会

令和3年	6月	21日	協議
令和3年	9月	15日	協議
令和3年	11月	2日	協議
令和3年	12月	13日	協議
令和4年	2月	28日	協議
令和4年	3月	10日	協議

2 調査概要

(1)「市内企業のICT化とものづくりの魅力発信について」

調査に当たり、当委員会として、まず、市内企業の現状把握のため、執行部から概要等の資料提供並びに説明を受けた。市内事業者のIT導入状況として、「八尾市給付金（事業者サポート給付金・製造業サポート給付金）のオンライン申請状況」をはじめ、「給付金申請事業者に対するアンケート調査の結果」、「景気動向調査におけるオンライン商談の実施状況」、その他、専門的知見を有するITコーディネーターの「IT導入に関する見解」の内容等について、また、ものづくりの魅力発信の状況として、本市の産業施策・事業の具体的な議論の場である八尾市産業振興会議

にて審議された「自社の強みと経営課題」について、また、「商品開発支援事業の背景と支援実績」、「商品開発支援による効果」等について、執行部から説明を受け、それぞれ事業効果や課題等について確認を行うとともに、委員間で協議を重ねた。

(2) 「水道事業の広域化の検討状況について」

八尾市水道局が大阪広域水道企業団との統合に向けた具体的な検討を進めていく中で、当委員会として、現状の把握と進捗の確認をするため、執行部から水道事業広域化検討状況の概要等の資料提供並びに説明を受けた。水道事業団との統合におけるこれまでの経緯をはじめ、「水道事業統合促進基金の活用による最適配置案等の策定結果」、事業統合に向けた今後のスケジュール、事業統合の効果等も含めて確認を行った。

3 委員会として一致した意見

(1) 「市内企業のICT化とものづくりの魅力発信について」

ア 市内企業のIT導入推進に向けたIT人材の育成

市内企業においても、デジタル化やDX（デジタルトランスフォーメーション）が急速に普及し、オンラインを活用した新たな事業展開や売上向上に資する取組を実践している企業が増えつつある一方で、IT等の活用に取り組んでいない、または取り組むことが難しい企業も一定数いることも事実である。

市内企業のICT化を進めるためには、ITを導入していない事業者への支援策を拡充させることが必要不可欠であり、その支援策の一つとして「IT人材の育成」があげられる。

市内企業のICT化とは、人材育成を含めてのことであると課題認識した上で、第6次総合計画前期基本計画の中で課題として示されている「Society5.0への対応に向け、データ分析やAIの活用等ができる幅広い専門人材の育成支援が必要になっている」という市の見解を具体的な施策として取り組むことを求める。

また、施策に取り組むに当たっては、事業効果を高めるため、商工会議所や「みせるばやお」との連携の手法を模索されたい。

イ 市内企業のIT導入推進に向けた情報発信等

ITを活用していない事業者の中には、その導入にコストがかかり、効果やメリット、必要性が分からず、導入に向けた検討もできていない事業者が一定数存在することが判明した。

そのような事業者に対して、IT活用に関する課題や不安などを払拭できるように、導入によるメリットや費用対効果などについて、事業者にとってわかりやすい情報の積極的な発信や丁寧な相談対応などを行われたい。

ウ 市内企業の実態把握と定量的な目標設定

ICT化を含めた八尾市の産業政策を考えたとき、部分的な統計ではなく、製造業と非製造業全体の実態を把握した上で、明確な数値目標を設定して取組を進

める必要がある。またその目標を達成するために、ターゲットを絞りながら戦略性を持った取組の展開と施策の評価を実施されたい。

エ ものづくりの魅力発信に係る定量的目標の設定

ものづくりの魅力発信に係る施策は様々に実施されており、企業同士の横のつながりを生かした情報発信や商品開発が進んでいることが確認できた。

今後は、これまで行ってきた事業の効果を検証しながら、その施策と結果が連動していることが把握できるよう、定量的な目標を設定しながらさらなる取組を進められたい。

オ 魅力創造部で連携したものづくりの魅力発信

中小零細企業支援における、ものづくりの魅力発信の大きな目標は、企業の売上げや販路の拡大と、雇用の創出であるということが確認できた。

その目標をさらに進めるため、あらゆる世代や主体に対して、八尾のものづくりの魅力伝えることができるように、観光・文化財課などと観光施策の観点でも連携を図りながら、魅力創造部全体で事業を進められたい。

4 委員会であった意見

(1) 「水道事業の広域化の検討状況について」

ア 水道事業の広域化に向けた市民への情報発信について。

イ 大阪府域一水道に向けた他市町村の動向について。

ウ 水道事業を統合した際の定性的メリットと定量的メリットについて。

エ 八尾市職員が大阪広域水道企業団職員に身分移管することに係る課題や制度等について。

オ 災害時等の危機管理対応について。

カ 職員の技術承継と人材確保について。